

同窓生の新刊紹介（上條一輝さん）

上原 昇（2組）

日経新聞（7月3日付夕刊）書評欄で評論家の野崎六助さんが上條一輝著『ポルターガイストの囚人』（東京創元社、25年6月刊）を「合理的説明で消えぬ怖さ」があると推しています。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUD263Y30W5A620C2000000/>

家の近くの書店の中を歩いていると、新刊コーナーに上條一輝さんの本がドーンと、平積みされていました。（写真）

関東同窓会 HP など、上條さんが本名・大田一昭さんという上田高校 109 期の若手作家であることを知りました。

上條さんは昨年（24 年）8 月に『深淵のテレパス』（東京創元社）を上梓して、その年の創元ホラー長編賞を受賞して話題になりました。

私はいろいろな本を読みますが、ホラー本は手にしたことがありません。

今回、『深淵のテレパス』と『ポルターガイストの囚人』の両方を読みました。

2 作はシリーズで登場人物も同じキャラクターが登場します。

感心したのは、2 作目の『ポルターガイストの囚人』の方が人物描写、話の展開、ワクワク感が格段にレベルアップしていることです。

本の題名の付け方もなかなか上手です。

因みに、ポルターガイストとは独語で「騒がしい幽霊」といった意味だそうです。

特にホラー小説が好きな諸氏は、猛暑で外出もままならない今夏、お勧めです。



上條一輝さん

（上田市役所にて、東信ジャーナル掲載）



書店店頭の上條一輝さんの本



『ポルターガイストの囚人』

(2025 年 7 月 9 日記)

以上